

強者の戦略

世界史〔京都大学 2016年 より〕

挑戦してみてもいかがだったでしょうか。

ではあらためて問題を確認します。

西暦8世紀半ば、非アラブ人ムスリムを主要な支持者としてアッバース朝が成立したことを契機に、イスラーム社会の担い手はますます多様化していった。なかでも9世紀以降、イスラーム教・イスラーム文化を受容した中央アジアのトルコ系の人々は、そののち近代に至るまでイスラーム世界において大きな役割を果たすようになる。この「トルコ系の人々のイスラーム化」の過程について、特に9世紀から12世紀に至る時期の様相を、以下の二つのキーワードを両方とも用いて300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

マムルーク

カラハン朝

<問われていることを確認>

主問：この「トルコ系の人々のイスラーム化」の過程について

時期：特に9世紀から12世紀に至る時期の様相

「この」とありますので、問題文をしっかりと読んでおかなくてはなりません。

↓

「西暦8世紀半ば、非アラブ人ムスリムを主要な支持者としてアッバース朝が成立したことを契機に、イスラーム社会の担い手はますます多様化していった。なかでも9世紀以降、イスラーム教・イスラーム文化を受容した中央アジアのトルコ系の人々は、そののち近代に至るまでイスラーム世界において大きな役割を果たすようになる。」

背景を確認します。750年にウマイヤ朝が滅びアッバース朝が成立します。ウマイヤ朝は「アラブ帝国」といわれ、本来イスラームでは神の下に皆平等であ

るはずなのに、アラブ人が様々な面で優遇されていました。上級官僚の独占などです。税制では、非アラブのイスラーム教徒(マワーリー)が、非ムスリム(ズィンミー)と同様にジズヤ(人頭税)やハラージュ(土地税)を払わなければならないという状態にあったのに対し、アラブ人はザカートといった施しのよ

うな税だけでした。
ムハンマドの叔父アル=アッバースの子孫、アブー=アルアッバースがこうした人々の不満を利用し、ウマイヤ朝を倒し、アッバース朝を創始します。このアッバース朝は「イスラーム帝国」とよばれ、民族に関係なくイスラーム法(シャリーア)で統治をすることに重きをおきました。税も、ムスリムであればハラージュを払い、非ムスリムがそのまま他の宗教を信じたいのであればハラージュに加えてジズヤを払えばよい、という形になりました。またイラン人を官僚に採用したり、またトルコ人の軍人奴隷マムルークを用いるなど、多くの民族を内包する国家となりました。特にこの軍事力を支えた遊牧民であったトルコ系のマムルークは大きな力を持ち、イスラーム化すると王朝をつくり、中央アジアから西アジアにかけて活躍することになります。近代にいたるまで、と問題にあります。1922年まで続いたオスマン帝国はトルコ系ですから、最初のトルコ系イスラーム王朝であるカラハン朝が10世紀に成立したところから考えると、トルコ系イスラーム王朝はかなり長く活躍しているなど感じます。

「トルコ系の人々のイスラーム化」とありますが、イスラーム化とは何を指すのか。もちろんトルコ人がイスラーム教徒になることではありますが、そうすると『コーラン』が伝わり、『コーラン』はアラビア語で書かれているのでアラビア語が伝わります。また『コーラン』から派生した神学なども研究されます。そうしたことも考えて問いに答えていきましょう。

強者の戦略

<時代ごとに確認・地域も確認>

「9世紀から12世紀」に至る時期とありますので、8世紀の内容は今回の解答には特に必要ありませんが、8世紀のトルコ系ってどんな勢力があったか分かかりますか？

中国史で突厥やウイグルが出てくるのは覚えていますよね。唐が突厥と戦ったり、755年から唐で始まる安史の乱では、ウイグルが援軍を送ったのは覚えている人も多いと思います。今回はこれは書かなくてよいですが、そのウイグルが滅亡するところからです。

○9世紀

840年ごろ、ウイグルがキルギス(トルコ系)によって滅びます。もともとトルコ人はアルタイ山脈あたりにいたとされ、モンゴル高原に勢力をもっていました。ところがウイグルが滅びると、トルコ人が西走することになります。そこでタリム盆地のタクラマカン砂漠とその周辺地域(現在の新疆ウイグル自治区に含まれる)や、パミール高原より西のソグディアナとよばれたアラル海の周辺やカスピ海周辺地域に移動しました。トルコ人が定住するようになると前者が東トルキスタン、後者が西トルキスタンとよばれるようになります。もともとアッバース朝が勢力をもっていた地域ではありましたが、西トルキスタンにイラン系サーマーン朝が成立し、トルコ人のイスラーム化が促進されます。サーマーン朝には奴隷市場があり、そこで奴隷身分としたトルコ人をマムルークとしてアッバース朝などに送る役割をはたしました。こうしてトルコ人はイスラームとの接点が増え、これまでマニ教や仏教などから改宗していくこととなります。

○10世紀

10世紀になると、トルコ系初のイスラーム王朝であるカラハン朝が成立します。これで一層トルコ人のイスラーム化が進み、トルキスタンにはイスラーム文化が浸透していきます。

なお、10世紀にはサーマーン朝より独立したガズナ朝がアフガニスタンに成立し、インドのパンジャーブに進出していきます。イスラーム勢力の最初のインド進出と言えるでしょう。

○11～12世紀

11世紀にはシル川周辺にトゥグルル=ベクによってセルジューク朝が成立します。セルジューク朝はバグダードに入り、当時ブワイフ朝に苦しめられていたアッバース朝カリフを助け、スルタンの称号を与えられます。スルタンはイスラーム世界全体の政治のリーダーであり、カリフは宗教権威として扱われるようになります。またセルジューク朝では宰相ニザーム=アルムルクによりマドラサ(ニザーミーヤ学院)が建てられ、スンナ派神学の研究も進みます。セルジューク朝は西アジアから小アジアまで進出します。1071年にはマンジケルトの戦いでビザンツ帝国を破ります。なお、ビザンツ帝国への圧迫が十字軍のきっかけとなります。その後セルジューク朝は4つに分裂します。小アジアの地域にはルーム=セルジューク朝が成立しました。その後13世紀末にはオスマン帝国が成立しますが、小アジアに現在もトルコ人がいるのは、こういった経緯があったからです。

また中央アジアではホラズム=シャー朝が成立しています。サマルカンドを中心に、13世紀にチンギス=ハンによって滅ぼされるまで栄えます。

強者の戦略

では解答例です。他にもこれはどう？という内容もあるかと思います。

以下の解答例を参考に、教科書類をみて、確認してみてください。

【解答例】

9世紀に中央アジアにトルコ人が移住すると、イラン系のサーマーン朝の下、トルコ人にイスラームやアラビア語が伝わりマニ教や仏教からの改宗が進み、トルコ人は軍人奴隸マムルークとして各地で採用された。10世紀にトルコ人初のイスラーム王朝であるカラハン朝が成立し、トルキスタンにイスラーム文化を導入した。サーマーン朝のマムルークはガズナ朝を建て、インドのイスラーム化を促進した。11世紀にはセルジューク朝がカリフよりスルタンの称号を受け、また領内にマドラサを設けスンナ派教学の発展につとめた。中央アジアではマムルークがホラズム朝を立て、小アジアに入ったセルジューク朝は分裂したが、トルコ化・イスラーム化が進んだ。(300字)

今回の問題は地図を思い浮かべながらやっていかないといけないですね。丁寧に復習してくださいね。

世界史 北林